



宮城県高齢者生協新聞

(ささえあい生協宮城)

2017年7月15日号(第122号)

■発行所 宮城県高齢者生活協同組合  
発行人 菅野 俊明

〒981-8006

仙台市泉区黒松1-14-25



TEL 022-727-6577

FAX 022-727-6588

No. 122

E-mail: [koreikyo@poppy.ocn.ne.jp](mailto:koreikyo@poppy.ocn.ne.jp)

URL: <http://miyagi.koureikyou.or.jp>

# より良き未来を切り開くため 人間らしく生きる運動を!

総代会  
特集号

～第18回通常総代会を開催しました～



丹野理事長より挨拶



会場の様子。市川先生の「思いを語る」を上映しました。(シルバーセンター第1研修室)



事業所活動の様子

◆6月18日(日)、仙台市シルバーセンターにて第18回通常総代会を開催しました。(本人出席53、委任状Q、書面議決書51、合計84)出席率:93%

12名の方から質疑やご意見をいただき、提案された全議案は賛成多数にて採択されました。

◆総代会に先立ち、昨年12月に「おしなりの」になった市川英彦日本高齢協建会元理事長のビデオメッセージ「思いを語る」を上映。市川先生の「思い」を組合員間で共有しました。

◆宮城県知事、仙台市長、その他多くの方々よりメッセージをいただきました。

◆総代会終了後、会場を移して懇親会を行い、交流を深めました。

## ◇開会のご挨拶

佐々木陽悦副理事長が開会あいさつを行いました。

## ◇理事報告のご挨拶

(丹野幸子理事長)

誰も踏み込んだことがない、前人未踏の高齢社会を牽引するフロントランナーの役割を担うのが高齢者生活協同組合であり、また人生の2幕目をより輝きのあるものにしようとするために様々なシナリオを用意するが考え、より良い暮らし、生活を求めて社会運動を推進する組織でもあります。

主権者が平和の中で幸せに暮らす権利や民主主義の仕組みを定めている憲法は、不断の努力で護示しなくてはならないものとしてシナリオには明記したいと思えます。お互いの違いや尊厳を大事にし、またそれを踏みこめるものは断固として立ち向かう勇気を持ち、社会的弱者といわれる人達に立ちふさがる暴力的困難や課題が発生する背景にある情勢にも、鋭く目を凝らす必要があるとします。市川先生のお話し、「人間らしい生活をする」運動をあらゆる場面で展開していく自分たちの手で作り上げ、良き未来

来を切り開く運動のバトンを受け渡す、それが、新しい時代に求められたフロンティアの命かけのスピーチなのだと思います。

## ◇来賓のご挨拶

渡辺淳子様

(宮城県生活協同組合連合会)



常務理事

宮城県の高齢化率は全国平均よりも高く、高齢者と共に地域での支え合いが求められている中、「寝たきりにならない、しない、元気な高齢者」を目標として社会参加と地域福祉の充実に取り組んでいることご敬意を表します。昨年11月「ネス」登録されたように、協同組合の思想や実践が人類の大切な財産であること、国際社会は高く評価しています。人と人との関係が希薄になっていく今こそ、地域での繋がりをお大切にする活動を広げる事が重要であると想います。

## 上森成人様

(日本高齢者生活協同組合連合会)

常任理事



高齢協と株式会社との介護の違い

は、利益を追求するものではない、という事です。高齢協は利用者生活のニーズを丸ごと引き受け、必要な支援は組合員や地域と共に作り出すなければなりません。「ごぶご」は全国の高齢協が期待しています。「共に手を取り合い誰もが光の輝いて生きている」の出来る社会を作るという連合会のスローガンのように、誇りと自信を持って、みんなが光の輝いて生きていることの出来る社会、誰も排除しない地域づくりを全国で進めさせていただきます。

## ◇議事録

議長推薦を受けた竹内信男総代と

一橋桃香総代の紹介があり、満場

一致で議長に選出され就任しました。

## ◇議案の提案

第1号議案「2016」年度事業

報告及び決算承認の件、第2号議案

「2017年度活動方針及び予算決

定の件」、第3号議案「役員報酬限度

額決定の件」、第4号議案「定款一部

見直しの件、第5号議案「議案決議

効力発生」の件」は宮野専務理事より

提案を行いました。

## ◇監事報告 (横尾盛雄監事)

新規事業(いろり庵)については

いつ、今後の経営健全化に向けて事

業計画の振り返りと、様々な営業

活動が必要とす。町内会から積極的

支援を得る工夫、イベント開催、訪

問看護ステーションとのパイプなど、

アイデアを募り実行してもらいたい。

## ◇総代登壇要旨

〇小岩眞理子総代(いろり庵)ご挨拶

理者)

いろり庵(ごぶご)は、4月当初は

利用者がいない日が続き、組合員

のみならずからも激励やお叱りをお

いただきました。4月に1名、5月に

2名、ご利用者は増え、7月には7

名の登録が済みなりました。職員が増えるまでお待ちいただいている方もいます。このうち、3名が囲炉裏庵だかもりから、2名は地域の

方の紹介、ケアマネから1名、病院相談室から1名、泉中央地域包括から1名です。地域の病院、居宅を回るほか、毎月ごびし便りをおく地域に全戸配布しています。先口行われた第1回運営推進委員会、「ごびし」のパンフレットに運営法人が高齢



者生活協同組合  
組口とい  
うことを大  
きく書き入  
れ、地域の皆  
々がご利用

者家族に安心してもらうためのつくりかた。この意見がだされました。また、地域の行事に積極的に参加したり、施設を知ってもらったための野菜販売と介護相談を1ヶ月に1度開催予定です。工夫の余地はまだあります。監事からご提案のあった訪問看護ステーションへの営業は行っていませんでした。受け入れのため、介護職のレベルをさらに上げる研修が必要となります。どんな方

でもお断りする方がないように準備していきたいと思っております。

### ○水戸部秀利理事

方針の41項 環境問題への取り組みに關わって発言します。環境問題は、高齢協の日常との直接の関わりはありませんが、住民が安心して生活できるための基盤となるものですので補足します。

(1) 仙台港に石炭火力発電所が建設される件に關して

関西電力や四国電力が、わざわざ仙台で石炭を燃やして発電し電力は主に首都圏へ送る計画です。「儲けは関西に、電力は東京に、汚染とリスクは東北に」これは、原発と同じ構図です。このことを知った住民は、当初の疑問や不安から、「怒り」へと変わりました。



「杜の都を石炭の都にするな」の声は、急速にひろがり、4月から開始した署名は、2か月足らずで22000筆を越えました。この声を大きく広げましょう。

(2) 女川原発の再稼働をめぐる問題について

「脱原発仙台市民会議」は、仙台市に対し、東北電力の株主総会で、「脱原発株主の会」が提案する原発再稼働をしない提案に反対しないことを要請しています。仙台市は、電力株約500万株を有する大株主です。

市民の安全、安心のためにも仙台市の意思表明は重要とします。

(3) 放射線汚染廃棄物の一斉焼却問題について

村井知事は、8000Bq以下の汚染廃棄物の一斉焼却方針を出しています。焼却による新たな汚染拡散も懸念されます。放射線汚染物は、「処分ではなく、放射能が減衰するまで厳重に管理保管する」のが原則であり、その責任は発生源者、すなわち東電にあります。

### ○中山博美総代

登米市で地域おこしのイベントで当日800人が参加し、蕎麦の打ち方を学びました。来年度も同じように5月の日に開催する予定です。回を這うことに参加者が増え、地域参加型が成功につながっています。

### ○中村正和総代

介護保険事業に關して、新しく取り組み、充分に事業形態になつていると思いますが、いろいろ庵ごびしについての監査報告については、これからいろいろ考慮しなければならぬと思います。

### ○奈良寛則総代

昨年12月、今田先生を呼んで認知症の話がありました。以前、泉病院友の会で認知症と忘れ物の違い、予防、等の健康講話がありました。それを高齢協で活動できないか、ということまで企画しました。山の寺集会所では参加者70名でユーモアのある話にみな感動したようです。多くのことから感謝され高齢協への加入もありました。

### ○佐藤恵子総代

泉中央老人福祉センターは十数年前知りましたが、環境のいいところで、職員の笑顔、利用者の笑声がこぼれています。私は、はじらつウォーキング、介護予防教室、映画上映会を楽しむにしています。弁護士意識を学んだことは印象に残りまし

た。うしまでも平和な国であってほしいと思えるような有意義なお話でした。

○赤間八重子総代

私は、泉中央老人福祉センターの近くに住んでいるので、みんなに大変いらやましがらわれています。行事の草刈りや芋煮、世代間交流ではゲーム、終わったあとのカレーでは「おいしかった」と言われ、嬉しかったです。芋煮では100食分作っています。大変ですが言われますが、私がかまわゆる事を、みんなの範囲でお互い様の気持ちで、感謝の気持ちで楽しくお手伝いする事をしたいと思っています。

○西田直由総代(寺岡社)の指導員

の月1回寺岡社(1)の集まる前は黒松社(1)で勤務しておりました。

年度初めは職員が足りなへ、子供たちが不安に感じると来事もあり、緊張の日々が続いたこともありました。そんな時他の3つの事業所から人員等を助けただけで、女性も少なくなりました。あつたあつた問題が起つた時、1つの事業

所だけで解決するのではなく、杜う全体の課題だと捉えることが解決の近道です。また、そんなときは相談支援事業所が必要と感じました。

宮城県ではまだまだ少ないです。相談支援事業所の開設を切に願います。

○永野まの理事

「泉西部地域福祉事業所」は泉中央老人福祉センター・田沼農庵たかもの・高森社(1)・寺岡社(1)・泉の庵(1)の5事業所で活動しています。泉区には300人強の組合員がいます。その方々との交流を通じ生活がよくなる、お互いが生活支援を取り組むことができます。今後

の課題としては、①自主活動の地域の懇談会開催②組合員増やこの機会を作る。④(1)(2)のイベントの企画製作の定例化⑤組合員を中心の組織づくりを目指します。

○藤原洋子総代

着物のリメイク、春と秋の震災復興ツアー・語の部活動などをしています。

汚れた着物が素敵な洋服に変わった様子に、イベントに参加された方

は風味深々のようです。若い人が、語の部(1)の後も活躍してほしいと感じました。

○堀内美代子総代

生活支援の料金について、もっと具体的にわかりやすくしてほしい。料金差をもうたたくしてほしい。

◇質疑・応答(要旨)

○昆布谷清穂総代  
第4号議案の表現で、見直しが変更しようとするのではなか。

○菅野俊明専務理事

新旧表をひけるなら、わからせたい。1)指指おわた(1)は重く受け止めています。泉の指導をいただきましたが、検討していきたい。

◇おまけ

○菅野俊明専務理事

皆さんの発言、本当にありがとうございます。1年間、私ども

の取り組みが広がっている証だと思っています。泉の庵(1)については利用者を多めしてほしいです。職員も確保して利用者増につ

なげたい。ぜひ紹介をお願いいたします。

◇特別決議

黒松社(1)の三浦総代よの総会アピール提案の発表が行われ、満場一致で承認されました。

◇閉会ご挨拶

(永野副理事長)  
新規事業は大変苦労します。経営はリアルに見ながらやっていきたい。高齢者に対する運営には理念、ロマン、なくてはならず。今まで職員は常勤20名非常勤20名になりました。

職員も利用者も人間です。みんなな意見の方があつた。生活1つ1つは、よく話し合つて、協同労働をすすめることです。若手の登用や地域や行政とも連携しながら進めていきます。

選挙管理事務局よの

総代会(1)は、総代立候補や当口参加、会場準備、提案・意見発表など協力いただければ、あつたあつた。次官から総代会を受けたいの意見コーナーを設けていただきます。(詳細は次のページ)